

若木民喜



1



「ヨシダレ」について

—— **本当に実在のものがたくさん出てきますね。**

そうですね、鴨川のオオサンショウウオも出したりしていますし(笑)。逆質問になってしまいますが、京大生的にはどういう要素が面白いと思いますか？

—— **漫画としていいかは別として、やはり内輪のネタが一番面白いですね。**

やっぱりそうですね。この漫画はジャンルとしてはラブコメなのですが、試験前のコピー機の渋滞とか、それこそオオサンショウウオとか、京大生の生態を描きたい！という気持ちも込められています。京大生に刺さるネタを書こうとしていますが、読者さん全体のウケを狙うのは難しくて、第4巻のお話に出てくる知恩寺のバザーとか、それこそ京大のあの周辺の住民しか知らないじゃないですか。毎週18ページですし、どういう塩梅にするか日々悩んでいます。

—— **毎週18ページと聞くと、とても大変そうに思えます。**

大変なのは大変ですが、僕はこの形態で

しか連載したことがなくて……何年もこのスタイルだと多少は楽になってきますし、担当さんと交代したい！とかは思わないですね。まあ、仕事なんてそのようなものですよ。

—— **お疲れ様です。次に、「ヨシダレ」の個性的なキャラクターを創る上で、気にかけていることなどはありますか？**

そうですね、やはり大事なのは「キャラの立ち位置」、そして「このキャラは何を繰り返すのか」ということだと思います。キャラが繰り返し行うことそのものが、そのキャラの「習性」になるわけです。例えば、主人公のキャラクターは入学当初の僕をモデルにしています。そんな僕は、ラブコメでどういう目に遭いたいか、つまりヒロインにどういうことをされたいか、を考えます。そこで、僕の好きな「プロレス」を結び付けた、ということです。

—— **ヒロインがプロレスラーになったのには、そういう背景もあったんですね。**

そういうことです。あと、プロレスって

基本的にタイマン勝負なんです。だから、作中に出てくる「京大 vs 同志社 デルタ決戦」のように、他の関係性に落とし込みやすいんです。そういうところもお気に入りですね。

—— **なるほど。かなり綿密に練って描かれているんですね。**

いや、最近はそのようなわけでもないですよ。それこそ昔の「神のみぞ知るセカイ」とかは事前に練ってから始めていましたが、今はそれほどでもありません。主人公のモデルが自分自身というもあり、作品と一緒に成長していつているな、というのを感じます。



▲デート前のワンシーン。どういう経緯でデートに至ったのか、そもそも2人は付き合っているのか？ 真相は「ヨシダレ」第3巻を読んで確かめていただきたい。ルレ……もといルネでも絶賛発売中です！

(法・1 匿名希望)
(2ヶ月後の君へ；編)



京大生について

—— **話を戻して……やはり京都「大学」がテーマというのは個性が強いですね。**

京都が舞台の作品は山ほどありますからね。その中で僕が持ってる武器は何だろう、と考えた結果、「京大」に至りました。一応京都出身ではありますが、京都市内に住んだこともないので、実のところ担当さんとその後輩さんに頼りきりです。しかしその結果、きわめてリアルな「京大生」を反映できているのではないかと、思います。

—— **京大はやはり、独特の雰囲気がありますよね。**

そうですね。山に囲まれているというの

EX 創作について（この章の聞き手：飛び入り参戦したすーだ）

—— **先生が漫画家を志されたきっかけなどがありますでしょうか。**

最初に漫画を描いたのは2回生の頃なのですが、当時は「漫画という未経験の分野でどこまでやれるか腕試ししてみよう」という気持ちでした。それで入選して「案外漫画家やれるのか？」と勘違いした辺りから人生が曲がってしまいましたね(笑)。

—— **勘違い、ですか。**

はい。例えば自分が商店をやっているとして、そこにどんな商品を並べたらいいか、が分からなくなってしまったんですよ。自分が何を描きたいかが分からず、ちょっと描いてすぐ寝かせてしまう、というのがずっと続いていました。「面白いものを書きたい！」というガワがあっても中身が伴わない、というのが大変辛かったです。ただ、これは経験を重ねることで割り切れるようになってきました。

—— **最後に、漫画において先生が一番大事だと思うことを教えていただきたいです。**

なるほど。私はコミックエッセイ(日

はみだし
すてーじ

Nintendo Switch 2 落選しました。
⇒手に入れたらZAでメガニウムをメガシンカさせましょう！



さいごに

—— **若木先生から見て、今の京大生はどのように映っていますか。**

立派だと思いますよ、特に僕らみたいな不甲斐ない団塊ジュニアに比べたらね(笑)。取材した京大生がまともなだけという可能性もありますが、少なくとも彼らは皆ハッキリとした考えを持っていて、ちゃんと自分の中に「トピック」がありました。その気持ちのまま、前に進んでいってほしいな、と思います。今日はありがとうございました。

—— **こちらこそ、本日はありがとうございました！**

もありますが、十人十色の京大生にも土地の結びつきがあるんだなあ、と感じます。川の向こうの同志社とはかなり違います(笑)。

—— **「ヨシダレ」本編でも、同志社生とプロレスマッチがありますよね。**

同志社の辺りはすごいにぎやかですね。在学当時はあの辺りにはほとんど行っていなかったのですが、第4巻には同志社に行く話もあるため、「進撃の巨人」の調査兵団の気持ちで取材に行こうと思います(笑)。まあ、同志社にも案外、京大みたいなシャイな人はいるかもしれません(笑)。

常のことを漫画にする)を描いているのですが、何か思うところがあれば教えていただけると幸いです。

まず、一般の少年誌や少女誌と比べて、画力というよりその個性がとても重要になってくると思います。自分なりの武器、自分にしか描けないものは何か？ ということですね。今回の僕の場合、それが「京大」だった、ということです。漫画はいわば「自分語り」なので、「自分」の専門家になるのが手っ取り早いです。が、大学生の皆さんはまだお若いので、様々な経験を積んで「自分」というものを豊かにするのがいいかなと思います。例えば過去作の「神のみぞ知るセカイ」は、ノベルゲーの要領でヒロインを攻略する話なのですが、これは僕が学生時代にノベルゲーにハマっていたのが生きています。好きなことでもそうでなくても、様々なことに挑戦するのが大事かなと。

—— **最後に、漫画において先生が一番大事だと思うことを教えていただきたいです。**

やはり「とにかく描くこと」ですね。画力も構成力も描き続ければ確実に上がりますが、その描き続けるという行為がとても難しいのです。そもそも描くために椅子に座り続けられるか、心身がどんな状態であっても描き続けられるか、メ切がなくても描き続けられるか。ここが漫画家にとって一番大きな分水嶺です。「1日1ページでも描く！」という気概を持ち、それを実行できれば、それだけでとてもいい、と思います。

若木民喜先生の最新作「ヨシダ檸檬ドロップス」は、現在第4巻まで発売中！ブックセンタールネでも取り扱っているので、ぜひご一読ください！

また、先生のXやブログでは、「ヨシダレ」の裏話や過去作のお話もされているので、気になる方はぜひご覧ください。

▼X



▼ブログ



(文・4 メガメガニウム)
(ポケモンのためにSwitch 2を買うか検討中；編)

はみだし
すてーじ

入念に作戦を準備してもう一度万博に行きたいです。
⇒この欄を読んでいるということは、あなたは万博に行ったのでしょうか？